

令和2年度 下水道事業会計決算の概要

令和3年(2021年)12月
札幌市下水道河川局



1 公営企業会計の特色

- 公営企業会計の収支は**収益的収支**と**資本的収支**の2種類に区分されます。

【収益的収支】

- ・ 施設の運転、維持管理に関する収支
- ・ 1年間の経営成績を表す

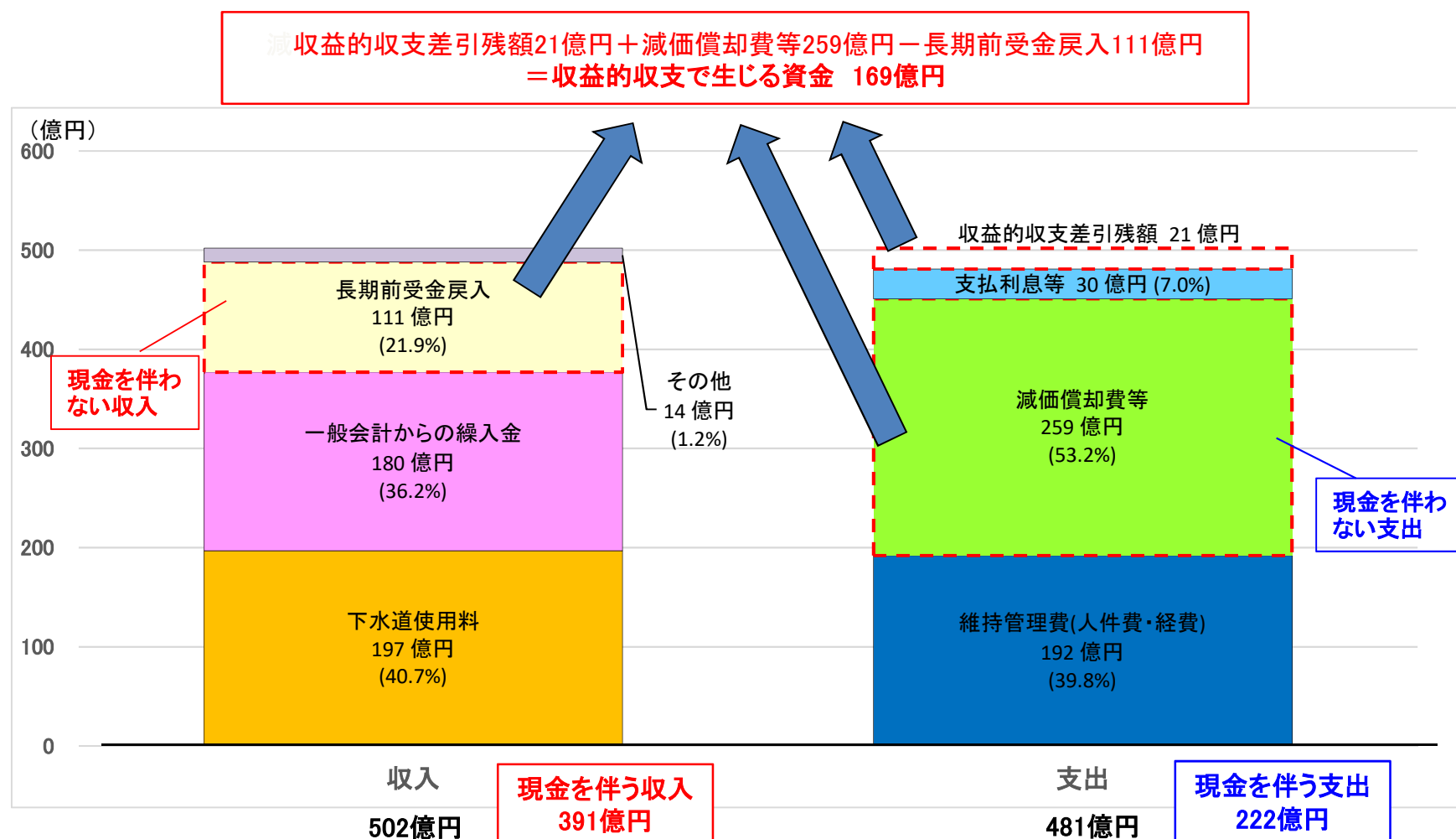
【資本的収支】

- ・ 施設の建設・改築に関する収支
- ・ 収入と支出の効果が複数年に及ぶ

- 収益的収支で生み出した資金は、資本的収支の収支不足を補うために使用します。

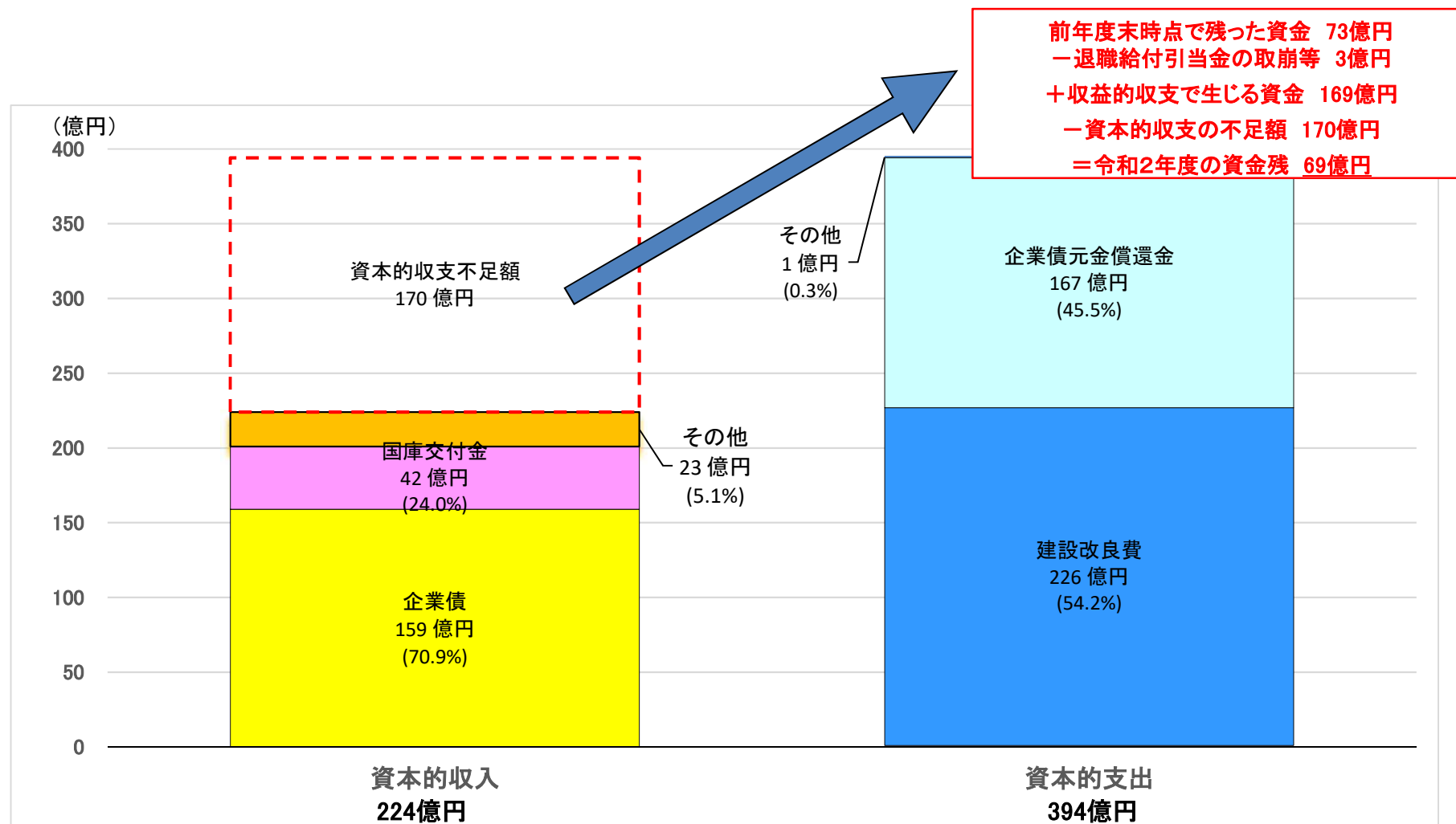
2 令和2年度決算の概要(収益的収支)

- 収益的収支は21億円の黒字となり、減価償却費等による内部留保資金と合わせて169億円の資金を生み出しました。



2 令和2年度決算の概要(資本的収支)

- 資本的収支は170億円の資金不足となり、収益的収支で生み出した資金と前年度の資金残で補てんしました。



2 令和2年度決算の概要（令和2年度予算との対比）

【収益的収支】

収入では消費税還付金の発生、支出では契約差金、電気料金や修繕費の不用等による維持管理費等の減があり、収支は2億円好転しました。（19億円→21億円）

【資本的収支】

収入では建設改良費の減に伴う企業債及び国庫交付金の減、支出では契約差金や繰越による建設改良費等の減があり、収支は4億円好転しました。（△174億円→△170億円）

【資金残】

収支の好転などにより、資金残は3億円好転しました。（66億円→69億円）

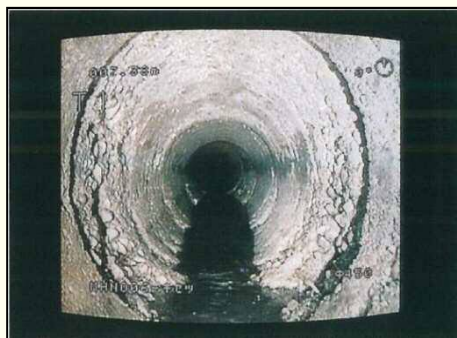
3 令和2年度決算の主要事業

【下水道施設の再構築】 老朽管の改築

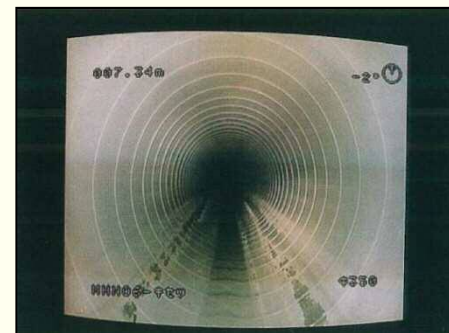
- 札幌市の下水道施設は、昭和40年代から50年代に集中的に整備を進めたため、将来、耐用年数(50年)を超える管路の急増が見込まれます。
- 今後は、管路の状態や不具合の程度を調査し、修繕による長寿命化を図るか、改築を行うかを総合的に判断し、計画的に管路の改築を進めていきます。
- 改築事業量については、段階的に増加させていく予定であり、令和2年度は、24.1kmの改築を実施しました。

管更生工法による老朽管の改築

昭和初期に整備した下水管（老朽管）



(改築前)



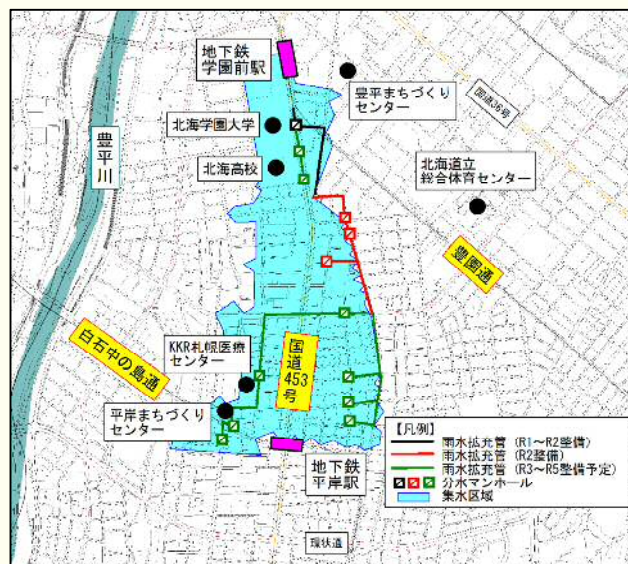
(改築後)

3 令和2年度決算の主要事業

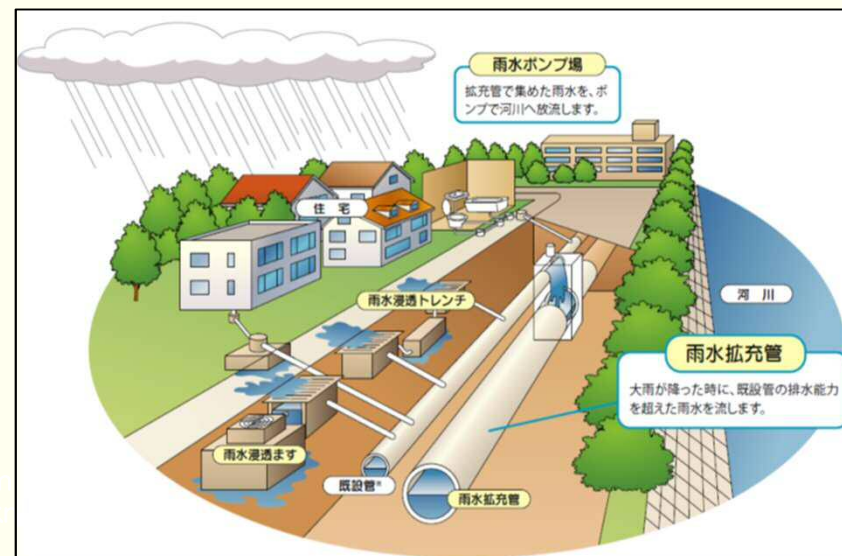
【下水道施設の災害対策(雨水対策)】雨水拡充管の整備

- 近年の全国的な集中豪雨の増加や都市化の進展により、浸水の危険性が高まっており、浸水対策事業の早期の推進が求められています。
- 札幌市では、国の補助事業である「下水道浸水被害軽減総合事業」等を活用し、令和元年度から令和5年度までの期間で、平岸地区における雨水拡充管の整備を行っています。

令和2年度整備箇所図



雨水拡充管イメージ図



4 札幌市下水道事業の課題と取組

【課題】財務体質の強化

- 今後、老朽化した下水道施設が急激に増加することから、将来的な建設事業費と維持管理費の増加は避けられません。
- 一方で、今後、札幌市の人口は減少に転じる見込みであり、現行の料金体系に基づく推計では、下水道使用料は将来的に大きく減少する見通しです。
- このため、財政状況は厳しさを増していく見通しです。



主な取組

- 改築基本方針に基づいて、計画的な維持管理及び改築を行います。
- 処理施設の土木・建築構造物の改築にあたっては、将来の人口減少を見据え、処理施設の統廃合などによる施設規模の適正化を検討します。
- 業務を効率化するための新たな取組を検討します。
- 国の交付金制度を積極的に活用するほか、用地など下水道事業が持つ資産の最大限の活用を検討します。
- 徹底したコストの縮減や収入を確保する取組などを実施した上で、適正な受益者負担について具体的に検討します。